

291-101



行幸を仰ぎ奉りて

宮崎高等農林學校編

291
101



始

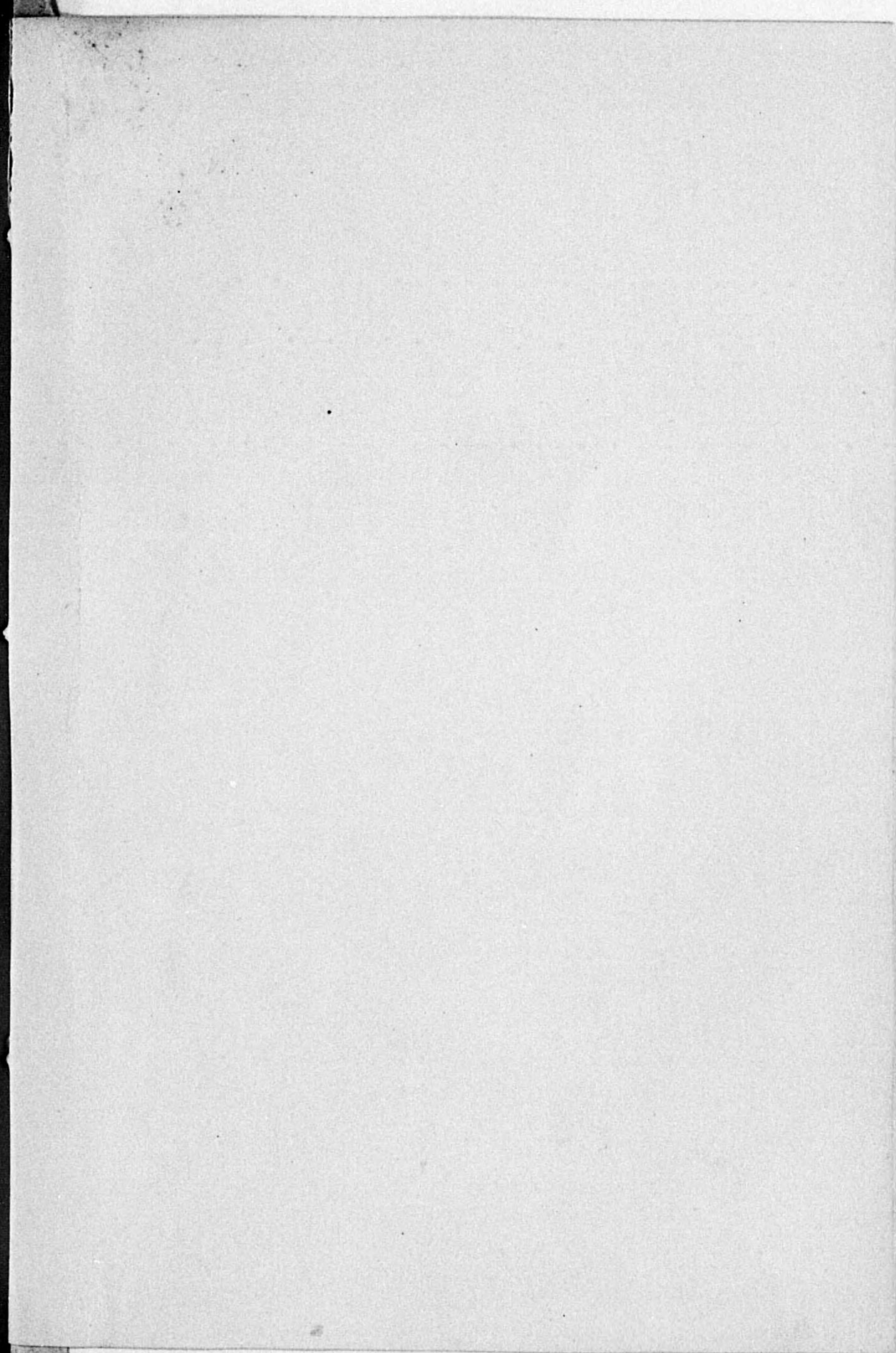
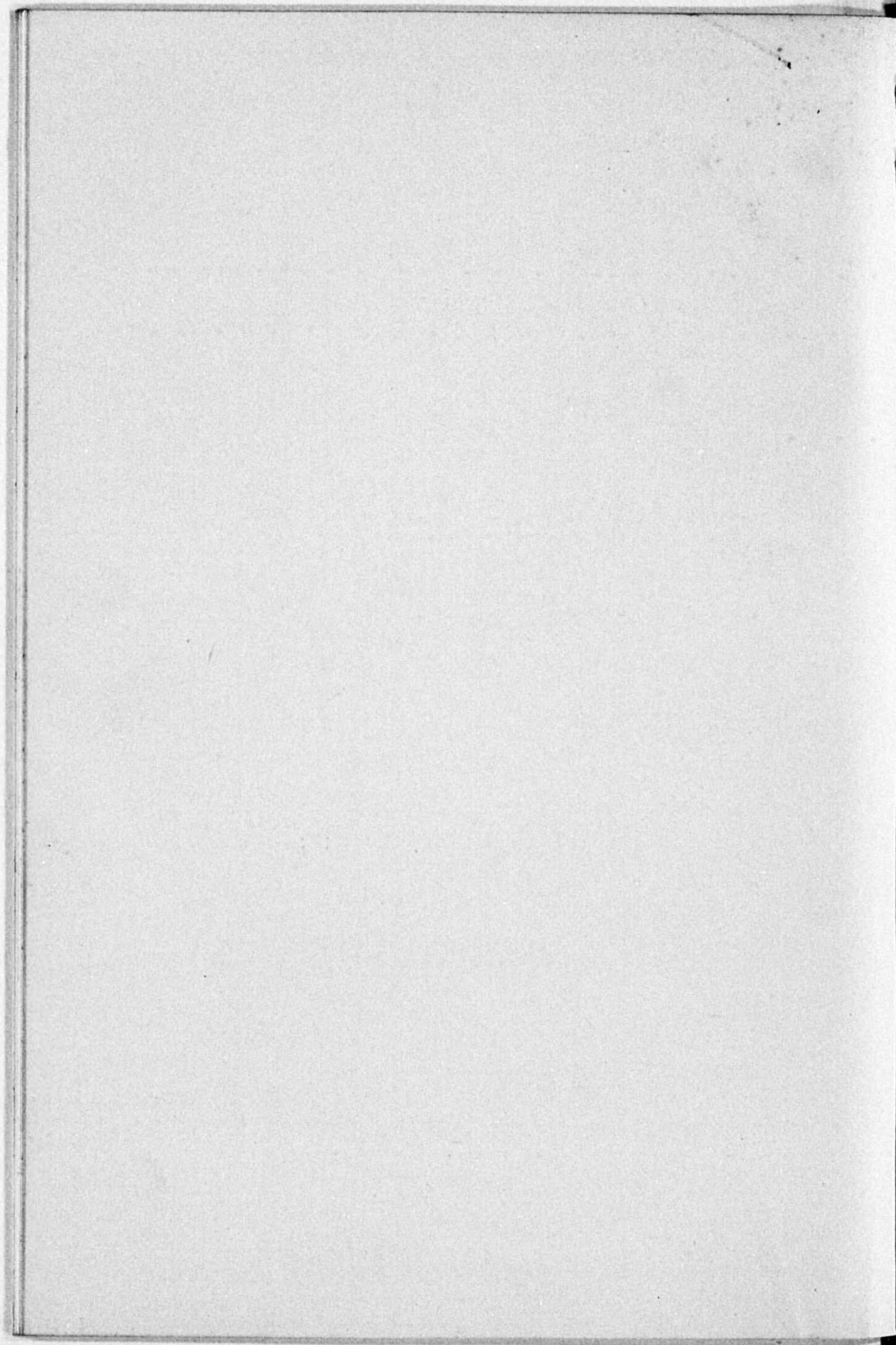


29
10

行幸を仰ぎ奉りて

昭和十年十月十八日午前十時
講堂に於ける松岡校長の謹話

宮崎高等農林學校



目次

行幸當日の謹寫集……………口繪

園簿齋御(校門)

校內御巡幸(テカシア並木道)

天覽(農業博物館臨上教官研究成績陳列場)

農場御巡幸(學生の粟刈入れ實習)

天覽(運動場)欄に並べられたる縣下優良馬匹)

職員に對する校長の謹話(會議室)……………一頁

職員並に學生に對する校長の謹話(講堂)……………二頁

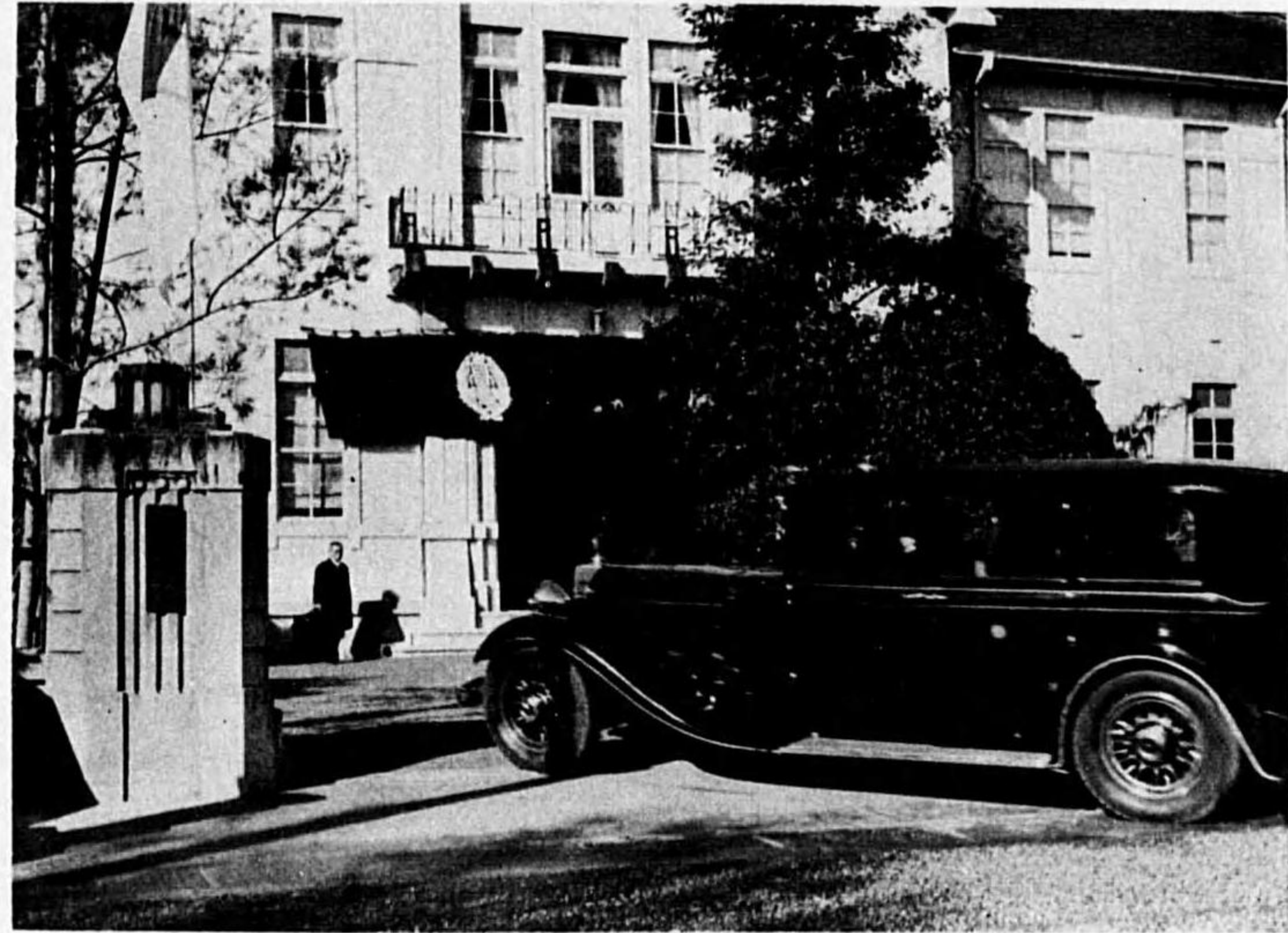
行幸を仰ぎて……………農學科第三學年 四位行正……………三〇頁

行幸感激記……………林學科第三學年 吉江清朗……………三三頁

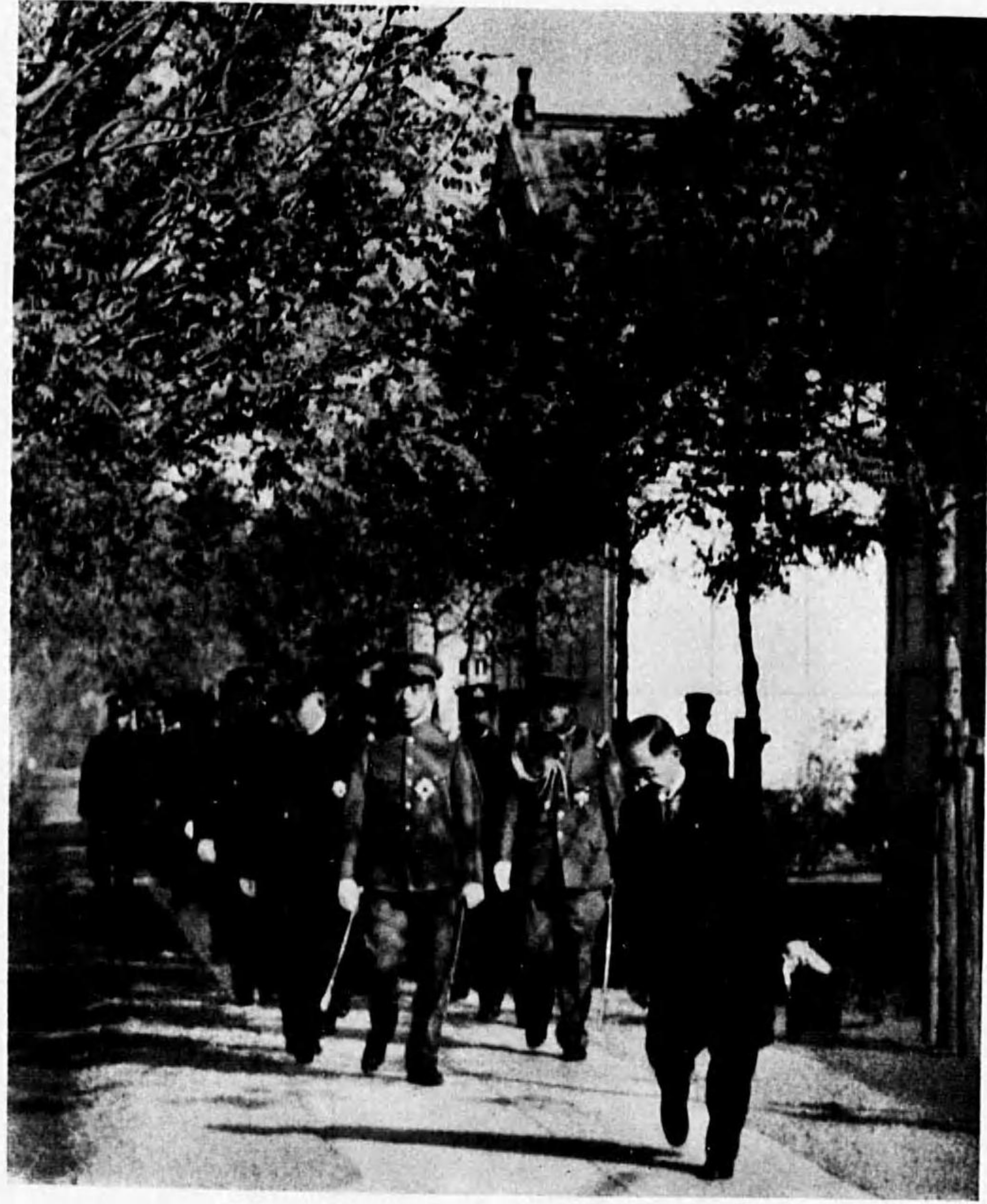
行幸を仰ぎ奉りて……………畜産學科第三學年 園田 正……………三五頁

奉迎 日誌……………三七頁





御 着 簿 函



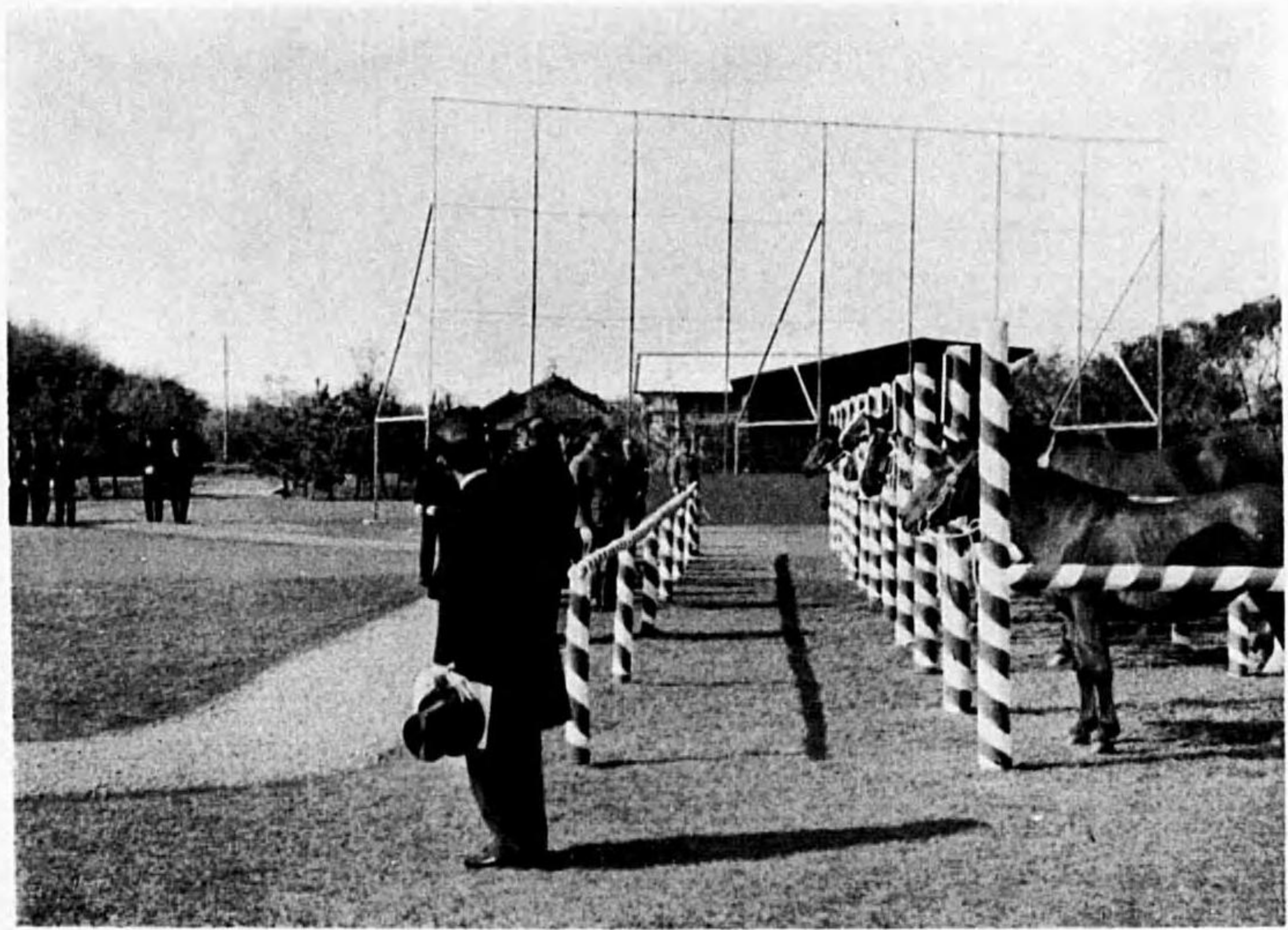
幸 巡 御 内 校



天覽農業博物館（教官研究成績陳列）



農 場 御 巡 幸



天 覽 馬 匹

職員に對する校長の謹話

御待ちに御待ち申上げました本校への行幸の御事も、無事終了致しまして、恰も光輝の世界に蘇生したやうな想ひを致すのであります。洵に感激の至りでございます。

各位の忠誠により長い日月の間に萬般の諸計畫の、水も漏らさない程立派な而して用意周到なる準備が出来上り之れが神に通じまして無事今日無上の光榮に浴し、寔に御同慶に堪へない次第でございます。此の點、謹尤で各位の赤誠に對して深く敬意を捧ぐる次第であります。申す迄もなく是等各位の御奮闘は、學校に對し、若しくは學校長に對する盡力では無くして、實に我々國民の大御親、私共各々の大御親に在す處の、一天萬乘に對し奉る處の各位の純忠の結果に他ならぬのであります。只、其の間、或は準備上、私から御無理な御指圖を申上げたり、或は折角、天覽品の御用意已に成つたのを、陳列の都合と御時間の關係上若しくは配合の關係上等から途中で陳列の中止を致しましたり又或は光榮の間近かになりましたは複雑な準備等に限りある小さい頭の能力を以て、動もすれば矛盾撞着した御指圖を申上げたり、或は取り紛ぎれて間違つた御註文を申上げては取り消す等たらざる點幾重にも御詫申上げる次第であります。

尙又、本校は御料乳及御料蔬菜の御準備につき縣よりの依頼により御奉仕致しましたのであります。此の重大なる責任を擔任せる各位の御奉仕に對しても、此際併せて敬意を表する次第でございます。又本校配屬

將校に於かれては全般の準備即ち精神的準備、物質的準備に對して、滿腔の誠意を以て御盡力を煩はしたことは、此際、特に厚く御禮を申し上げます。尙御斷り申上げたことは畏くも陛下に對し奉りて天覽品の御説明申上ぐるに當りまして、各研究者の御氏名を一々申上げなかつたことでもあります。當初は御説明申上ぐる際には研究者の氏名も併せて言上申上ぐる用意を持つて居りましたが、陛下に於かせられましたは、一々各位の御研究に天覽を賜り各御説明書と實物とを畏くも一々御對照遊ばされて御目を御通しになつて在らせられるのを拜した爲めに、煩を避け時間を節約する爲めに研究者の氏名を申上ぐることを省略致したのであります。

是から講堂に参りまして全校職員並に學生諸君に對して、感激の謹話を申上げて私の光榮の大任を果さして頂いた報告と致したいと存じます。

職員並に學生に對する校長の謹話

本校及教員養成所、並に第三拓殖訓練所、全校の職員學生並に備人各位に對して、今回無上の光榮に浴しました感激の謹話を申上げまして、私の大任を果させて頂いた御報告に致したいと思ひます。

半歳以上の久しきに互り御待ちに御待ち申上げ、或は精神的に、或は物質的に、準備に準備を致しまして、其の日の來たるのを胸を轟ろかして御待ちして居りました、昭和十年の十一月十四日、四百有餘の我々民草は

其の日の午前九時四十二分に、我が校門に燦たる鳳輦を奉迎申上げて、我々一生涯に再び會ふことの出來ざる無上の光榮を本校と共に吾々各自が奉戴し、諸君の長い日子の間、竭しに竭した忠誠の賜物に依つて些細の缺陷もなく、筆にも紙にも乃至口頭を以ても盡し得ない感激の裡に我が運動場に於て、一天萬乗を奉送し茲に我々が新たなる光輝ある世界に蘇生し、學校の歴史に不滅な維新的な第一歩を踏込む幸福を得たのであります。願れば、本秋宮崎鹿兒島兩縣下に於て行はせらるゝ大演習の事を洩れ承はり此の無上の光榮ある行幸を宮内省に出頭して、御願ひ申上げたのは半歳以前の本年四月一日であります。歸來、直に、校門の廣さを擴張して御用意の第一歩に着手し、諸般の準備を或は心の中に、或は形の上に行ひつゝ、遂に六月月上旬に宮内省の第一回の下檢分を受けまして遂に六月十九日に正式の第一回の教官會議を開いて、全職員の準備事務の分擔を決定したのであります。爾來何回となく或は大綱的に各分擔事項の打合せをなし、或は細目的に係員の事務の打合せをなし、六月二十六日には第一回のチブスの豫防注射を行ふ等、各員が深甚の赤誠と苦心とを重ねて、十一月十四日の來たるを只管に御待申上げた次第であることは、各位並に諸君が能く御承知の所であります。而して其の間學生諸君は、或は天覽品、或は各種實習、特に御親閱の爲の豫行、更に間近となつては専心學校警備等に當つて晝夜の別なく、一切準備に當られたのであります。斯の如く學生と職員各位が一體となり不眠不休の努力をせられて今日空前の光榮に浴したのであります。要するに是れ皆諸君が陛下に捧げ奉る、一片忠誠の真心の致す所であります。此の赤誠の結晶こそが、未曾有の大光榮を戴いた次第であります。茲に無窮の御聖徳に感激しつゝ、此の光榮を擔はれた各位並に諸君に御祝辭を申上げる

次第であります。

是から當日の感激の謹話を申し上げたいと思ひますが今申上ぐる感激の謹話は、私が御先導申し上げた間に親しく奉拜致した御聖徳に就てでありますことは勿論であります。私は終始戦々兢々として低頭の姿勢を以て陛下の御先導を申し上げたが爲に、陛下の御舉作の一切を拜することが出来なかつたのであります。其れ故當時或は御通路、或は研究室等に起立して居られた方々や、或は農場其の他に作業を分擔して居られた方々、其の他數多の諸君を還幸直後校長室にお呼びして陛下の御動靜を親しく奉拜した謹話を、御聽き致し之によつて多々補ふことが出来たのであります。今是等を綜合して今日の謹話を致す次第であります。

諸君の大部分は運動場に、或は又農場や實驗室等に靜かに佇立して風聲の校門に着御あらせられるのを、今か今かと御待ちして居られたのであります。私は又、教官の大部分や文部大臣等と共に玄關前に起立致して一分でも御早く御着になるのを念願し胸をとどろかしながら刻一刻と懷中時計を凝視しつゝ御待ち申上げ遂に定刻九時四十二分と申すに燦たる風聲が以上の人々の奉迎の裡に着御遊ばされたのであります。私は恭しく最敬禮致しまして直ちに玄關の石段を登つて御左側を恐惶として御先導申上げ、御座所に入御を願ひ奉つたのであります。

陛下に於かせられましたは、御先祖宮崎神宮に御親遊ばされました爲め、多くの勳章を御佩用遊ばされて居られたのであります。長くも本校の御座所に於かせられて、御佩用の勳章を御取り遊ばされ是を侍臣に御渡しあらせられたのであります。それから宮内大臣、侍従長、侍従武官長の三人が側近に侍立されて、

文部大臣が拜謁を賜はり、次に普通學務局長が拜謁を賜り其の次に私が拜謁の光榮を戴きました。かくて遂に極まりなき感激の瞬間が到着致しまして、私が微臣の身を以つて畏れ多くも陛下の御前咫尺の間に參進して本校の教育状況につき約四分間に互り奏申上ぐる光榮を與へられたのであります。

それから私の御先行、侍従長の御先導に依つて列立拜謁室に御出ましになりました。教官並に文部省の一行中の高等官に列立拜謁を賜はりました。此の拜謁を終りましたからは私が御先導申上げまして本校實況の御天覽を願つたのであります。

拜するに、陛下に於かせられましたは、長い御日子の陸軍特別大演習御統監、或は地方行幸等に洵に御繁務御多端に互らせられ、殊に鹿兒島灣頭に御着港當時は御風邪の御氣味にあらせられたことを新聞紙等にて漏れ承つたのであります。或は未だ其の御風邪が全く御快癒遊ばされて居られないやに拜し洵に畏れ多いこととございますが、尙新聞紙等に載せられて居りませぬが、御先導中に時々御咳を遊ばされ誠に恐懼に堪えませんでした。それにも拘りませず實に長時間、本校の各般の實況を親しく覽はせられたのであります。聖慮の程返す返すも感激の極みと申さねばなりません。而して各種の天覽を遊ばされ給ふ御態度は、それを拜するに畏れ多く臣下として大御心を拜察すると云ふことは恐懼の至りであります。單なる御趣味や御感興を超越遊ばされて天覽品の背後に潜む我が教官各位並に青年學徒諸君の苦心其者に對せられて御叮嚀なる御天覽を賜つたやうに拜察するのであります。即ちそれは畏れ多くも出品者の眞心、實習者の眞心の一々に對する優渥なる大御心の御會釋であつた様に私は拜察するのであります。御説明書や、或は農場の各所に整

備された立札等の文字に迄一々御眼を御通しになり、吾々拙き者の天覽を願ふ眞心に一々賜はる大御心の忝さの数々、出品者も、實習者も唯唯感涙に咽ぶ外はないのであります。

斯様にして私は先づ第一に學生控室と第四實驗室の間の御通路を御先導申上げて路傍に出陳せる物の中で先づ第一に宮澤先生出陳のヒナヒゴタイを天覽に供すべく御先導申上げたのであります。

ヒナヒゴタイは鉢に植はつて今正に花盛りの状況を天覽遊ばされたのであります。私は恐惶として「これはヒナヒゴタイで御座ります。今より百五十年前に瑞典の植物學者ツンベルヒが日本に來朝の際に歐羅巴に持ち歸りまして、記録に上された植物でございますが最近まで我國に於ける其の所在は不明でありましたのを、教授の宮澤文吾が青島の海岸附近で發見致しまして、學界に紹介致したのでございます。」と申上げました。

私の御説明は諸君の知られる通り何回となく實地に豫習を致し、此の出品には何秒間、次の出品には何秒間とストップブウォッチで時間を豫測し又、玉歩を運ばせ給ふ御時間は何分間とその合計時間が御豫定の約四十分間に一致するやうに豫習して、御説明の要點を頭に牢記し原稿は萬一に備へて手に持つて御先導申上げたのであります。唯今申上げたやうにヒナヒゴタイに就て私が御説明申上げますと、陛下には「ウン」と御肯きになり凝つと其の方へ御注目遊ばされました。

其の次にはヒウガツツジ、次には新しく宮澤先生に依つて育成せられた五月躑躅の新種「豊國」であります。

其の次は是又宮澤先生の陳列された日向のノヂギクでありまして數十鉢のノヂギクは今を盛りと咲き亂れて居りました。之は御先導申上げながら御説明申上げました。

陛下は此際御豫定の御通路たるコンクリート歩道の眞中を御通りあらせられず、ずつと端を御通りになり陳列せられたる數十の鉢を殆ど一つ／＼と云ふ程に御注目遊ばされつゝ宮澤先生の人工交配によつて栽培菊の特徴を一層明かに具へた雜種ノヂギク迄御天覽遊ばされました。ノヂギクがお濟みになりましたから再び御先導申上げつゝ「本校々庭には色々な植物を栽培して校庭を美化致し一面に植物園として生徒の教育參考に供して居ります」と申上げた頃には既に第四實驗室を左に御廻り在らせられたやうに記憶いたします。

其の際「本縣にはシダの種類が百三十種以上ござりまして既に教授用標本として蒐集して居ります。その中で約五十種程を今春茲に移し植えまして生徒の參考に資したのであります。未だ移植後日数が短かくして充分に成育を遂げてござりませぬ。」と御説明申上げました所が、陛下にはつか／＼と乾蘆室の横に宮澤先生が此の春岩石と南國特有の樹木とで造られた庭の樹木の中に植ゑられたシダ類の方にお近づきになり、鋪装せる御通路外の土の上に玉歩を印せられ、それから再び鋪道に御立ち戻りになりました。

斯くて私は右折して農業博物館への御通路に御案内申上げた次第であります。さうして養蠶室前の御通路脇に青年學校教員養成所の諸君が出陳された、蜂の巢の前に於て「是は本縣青年學校教員養成所の生徒が、本縣下に於て集めました蜂の巢で種類は九つでござります。」と前進しつゝ申上げましたが、矢張御道筋を御外し遊ばされて御天覽を賜はりました。

其の次に反對の博物館前に陳列致しました蔓性の植物に移る前に御先導申上げつ、「本縣には蔓性の植物が澤山ござりまして山林を五十年も放任して自然の儘に致して置きますと多くの蔓性植物は林木を掩ひまして恰も熱帯地方に觀まする如き奇觀を呈します。是はその蔓性植物を集めたものでござります。」と申上げて、其の儘御通御を願はうと存じて居りました處が、陛下は、農業博物館前の新らしく出來た校庭の中に立てかけた三十餘種の蔓性植物の陳列の前に道籬の草を御跨ぎになつて蔓性植物にお近づきになりちつと天覽遊ばされました。

私は蔓性植物につきては御説明申上げる豫定でなかつたのでありますが、さう云ふ風に御覽遊ばされますのでありますから、私は、「是はクズで御座ります。東北地方では小指のやうな細い蔓で御座りますが本縣では四十種も太く肥ります。」と云ふ風に一二の蔓につきて御説明申上げました。

それから愈々主要天覽場たる農業博物館に御先導申上げたのであります。

茲で私は、一言學生諸君に申述べます。諸君の先輩である所の卒業生諸君が本校を思ふの念から日本で最も新しい施設である所の農業博物館を創立十周年記念に寄附されそれが已に落成したのであります。他の専門學校等でも、建物寄附の例はありますが、多くの學校に於きましてそれが計畫倒れになる例が少くないのであります。處が我が校に於ては十周年記念式の數ヶ月前に既に落成して意義ある此の新成の建物に行幸を仰ぎ得ましたる事は實に卒業生にとり深甚の光榮であり言語に絶した感激であります。而して私は卒業生諸君の一層の光榮の爲め玉歩を其の玄關に仰ぐと共に御先導申上げつ、「此の建物は創立十周年記念に本校の

卒業生が本校に寄附致しました建物で御座ります。」と申上げました。そうして二階の方に眞直ぐに御先導申上げやうと思つて居りました所、其處に起立して最敬禮を致して居りました本校の教官及卒業生日高醇君學生澤口由吉君等に對し畏くも御叮嚀なる御會釋を賜つて、二階に御昇り遊ばされました。私は二階の最初の陳列品の前で「こちらは本校教官の成績品を、天覽に供する處でござります」と申上げて第一に宮澤先生の日向に於ける新發見の植物標本、其の次に矢張り宮澤先生の特殊植物五項の陳列につき御説明申上げ一々深き御注目を賜りました。即ち梅、桃、芭蕉等農業用植物にして日向に残存自生せる植物標本を、次に九州未記録の植物にして日向に於て發見せる植物を、次に九州以外未記録の特殊植物を、次に樺太北海道より内地各府縣に互り分布し日向に及びて分布しある植物を、次に臺灣、琉球の植物にして九州殊に日向を北限とする植物の五項數十種に及ぶ標本を一々御叮嚀に御通覽あつて其の次に井上先生の大麥の減數分裂の研究を天覽に供しました。其處には顯微鏡が三臺用意されており又顯微鏡の寫生圖も陳列されてあります。「此の研究の材料は大麥の花粉の母細胞で御座りまして二回の分裂を致し四個の花粉となります際、分裂の初期に於きまして核絲と小核(仁)とが互ひに連絡して居りますことを研究者が發見致しました。そのプレパラートがこちらの顯微鏡下に用意せられて御座ります。研究者は小核を以て遺傳的物質の貯藏所であることを學界に發表したので御座ります」と申上げました。是は重大なる發見であることは諸君も察知し得られるもので、將來必ず學界の認むる所となるものと私は信ずるものであります。

陛下には直ちに其の顯微鏡を天覽になり、顯微鏡の御操作も御鮮かにあらせられることは、豫て漏れ承つ

て居ります所であります。非常に御敏捷にあの小さい螺旋をスツ／＼と御廻しになり、御眼よりも御手の方が捷く、小さい螺旋の方に御働かしになり、私共の言葉で申上げると非常に御要領良く御覽遊ばされ、三臺の顯微鏡を全部御覽遊ばされたのであります。

其の次には松原先生の栗の花芽分化と雌花形成の研究より先生が栗の剪定法發明の事に互りて御説明申上げ天覽を賜ふたのであります。

其の次の御天覽は重松先生の木炭と原料木との顯微鏡的組織を比較調査して如何なる顯微鏡的組織の木材から如何なる性質の木炭が生産せられるかを研究したものであります。その事を簡單に御説明申上げて次に移らうと致しましたけれども、澤山陳列された木材と炭の標本を一つ／＼御比較になつて御覽遊ばされて居られますので私は再び元に立戻りまして、斯う云ふ組織の木材からは軟かい木炭が出来、斯う云ふ組織の木材からは斯う云ふ堅い木炭が出来ますと云ふ意味を申上げました。處が其の時に本多行幸主務官が、陛下が御熱心に此の木炭の研究を御覽遊ばされて居ります御後から密かに私を手招きされて、「少し時間が遅れたからして成るべく早目に御先導申上げるやうに」と云ふ御注意がありました。私は今まで豫習の通りの御説明を申げて参りましたし、尙御豫定の時間内の御先導に就きましたは、細心の注意を拂つて居た積りでございましたが宮内官の御注意でその後は急に心騒がしくなつて参りました。

その後の御説明は腹案の三分の一も申上げ得なかつたであらうと思ひます。其處から斑竹にお移りを願つたのであります。

斑竹の研究は日野教授と昨年卒業した日高君の研究に成るもので豫て斑竹については天聽に達して居りまして二回の下檢分に二回とも縣の方に天覽に供するやうに、御注意があつたさうで本校としてもそれを洩れ承りまして特に重大に考へて居つたのであります。

而して虎斑竹、日向斑竹、涙斑竹の三種何れも右の二人の方々の研究でありまして己に學界に發表されたのであります。

陳列された標本は此の三種の各々につき自然の儘の枝のある斑竹と獻上用品と及び夫々の菌の顯微鏡寫眞と並に顯微鏡下のプレパレートとを備へて、御説明は一分間で申上げる豫定で居りましたけれども唯今申述べたやうに其の間に宮内官の御注意を受けたものでありますから私は十秒か十五秒位の簡單な御説明を申上げて退つたのであります。所が陛下は枝のついた儘の自然の斑竹を御熱心に天覽になり、次に獻上用の桐製標本箱に納められた一種類の斑竹に就き「自然の無病竹」と「自然の病斑竹」と「病斑竹を研き上げて美麗な斑紋を表はした竹」と三本宛の標本が三種類合計九本並べてありましたその獻上用標本を御通覽遊ばされて其の次に一種類の菌につき一臺宛即ち三臺の顯微鏡下のプレパレートを一々夫々の説明書と寫眞とを御比較になりまして御覽遊ばされました。

其の次に重松先生の改良日向窯であります。此の窯は縣の方でも大本營で天覽に供したさうで、本縣三島知事から十三日の晩に私に電話があつて「改良日向窯はどう云ふ點が改良されたか」と云ふ御下問があつて知事は「宮崎高等農林學校で御説明申上ぐるやうに連絡が取つてござります」と奉答申上げたからその積り

で御説明申上げるやうにとのことでありました。而して日向黨の歴史と改良された點とに付ては重松先生に問ひ質して教へて頂いてよく記憶して居り要領よく御説明申上ぐる豫定でありましたけれども今申上げた通り宮内官から御注意を受けたので斑竹同様に充分申上げることが出来なかつた爲に、簡単に重松先生の研究せられた點だけを申上げた次第であります。

それから次は淺野先生の出陳せられた飢肥杉の成長の研究であります。林業方面に於ける本縣の名産である所の飢肥杉を秋田杉と比較致しまして其の生長率、生長曲線を詳しく研究せられました資料が陳列されてあります。而して是も簡単に飢肥杉の生長が極めて早い事を申上げて此の研究に依れば秋田杉に比較して栽植後二十年間に於ける生長量は飢肥杉は秋田杉に比し百五十倍以上にも達する旨を御説明申上げました所、御興御深げた御聞き取り遊ばされて、説明書と圖表を御覽になりました。其の次には北尾先生のマツノミドリハバチの中腸の消化作用を營む時の細胞の變化の研究を天覽に供しました。茲では先生の執筆になる寫生圖が顯微鏡下の實物と共に陳列されてあります。寫生圖には消化液の分泌液が細毛層を押し分けて腸腔中に出で、消失し腸の限界膜が脱離して内容物を包圍し腸壁を保護する所と、消化された滋養液が吸収される際には新たに腸の限界膜が再生し細毛層は整然と並列して滋養液を迅速に一樣に腸細胞が吸収攝取する所とを寫生されたものでありまして、陛下は寫生圖と顯微鏡下のプレパラートとを御比較になつて御覽になりました。顯微鏡は斑竹の所に三臺、井上先生の方にも三臺、此處には二臺備へてありましたが八臺共に御天覽を戴きました。

陛下には、此の方面には特に極めて御造詣深く在らせられます事は洩れ承つて居りますが私の極々簡単な御説明でも北尾先生の執筆に成る圖解と顯微鏡とを御對照遊ばされて御覽遊ばされ直ちに充分御諒解を賜つた御模様を拜せられました。尙第二臺目顯微鏡の天覽を終らせられてから、中腸を組織致す一般の圓嚙細胞の間に稀に凹型の杯狀細胞が存在する事が從來も知られて居りそれが特殊の細胞として學界に於て從來考へられて居りましたが此の研究の結果、杯狀細胞は圓嚙細胞の前身にて之が発育して圓嚙細胞となることを研究者が発見したものであります旨を之も極めて簡単に御説明申上げました所「うん」と大きく御背きを賜つたのであります。

次に中島先生の稚蠶に對する刺戟光線放射に關する研究を御天覽に供しました。稚蠶共同飼育は從來から一般に行はれて居る所で御座いまして、密閉飼育の爲め蠶兒の生理を害し收繭に不良の影響を來しつゝありましたが中島先生の研究は或る一定の距離から或る一定の時間紫外赤外兩光線を綜合放射する事によりまして收繭上に良結果を來す事が出来る事を確めました研究であります旨を之も極々簡単に申上げました處、是にも「うん」と仰せられました圖表と實物を御比較になりました。

次は農村の讀物の調査でありまして小早川先生の長い間の御苦心、學生諸君や青年學校卒業生諸君の努力をも籠めた長期間の研究調査に成るもので、是には私は矢張り一分間内外の御説明を申上げる豫定でありましたが遺憾ながら僅か十五秒位で簡単に、是は本縣多數の農家の讀物を調査したものでございます。それに依りますと此の通り總購讀戸數中雜誌が九十一パーセント御座りますのに對し新聞が僅かに三十九パーセン

で雑誌が新聞より遙かに多く讀まれて居ります、等の概要を極く簡単に申上げまして、其の次の宮澤先生の稲の突然變異の遺傳學的研究に御移りを願ひ是も簡単に申上げ、橋本先生の初生雛の雌雄鑑別法の研究に御移りを願ひました。是は豫定の御説明を申上げました。此處でも御熱心に御天覽遊ばされて御肯きになり、取り具へてある研究者の研究模型等の御天覽を賜りました。之れで階上が終りまして直ちに階下に御先導申上げやうと致しましたが其處に起立して居る研究者諸君に再び御叮嚀なる御會釋を賜りましたのを拜して、又しても熱き感激に胸打たるゝ思ひを致した次第であります。

それから階下の生徒の方の天覽室に御先導申上げまして「此處には本校の生徒の成績品を陳列致して御座ります」と申上げまして、御注意もありますので私は成るべく御素通りを願ふ心持ちで階下を御先導申上げたいと存じましたが、階下には尙も御熱心に天覽あらせられましてなか／＼玉歩をお運び賜はらなかつたのであります。それで私は御時間を氣に致しつゝも御先導をお控へ申上げ、極く極く簡單ながら其等出陳物に就ても御説明を申上げる外仕様がなかつたのであります。已に階上に於いても豫定より時間が可なりお延びになりましたので、時々時計を出しては見ますが、當時私の全身全靈は恐懼と感激其の者となつて居つたのでありませう、幾ら時計を見つめましても時計が何時何分を指して居るのか分らない、唯無意識的に時計の面を見ると云ふ状態でありました。

階下では本校生徒の農三、楠本君の採集になる宮崎市附近の尺蠖蛾類六十三種、次に同じく玉村君の歩行蟲六十七種、次に農三、王寺君及林一白水君の日向の蝶類標本六十七種、次に農三、野中、王寺、齋藤、澤

口、玉村の諸君採集する所の宮崎市附近の蜘蛛類四十八種の標本を御天覽遊ばされ次に彼の有名なる世界の學界に珍稀とせられた日本特有のキムラグモの研究に移られました。此の蜘蛛は大正九年已に鹿兒島市城山に於て發見せられたものであります、其の後生態及分布等につき研究なかりしを農三の澤口君が初めて之を研究し、今回其の分布に關する調査圖と生態を示した實物標本とを天覽に供したのであります、之に對しては一應御天覽遊ばされて次の陳列品に御移りかけ遊されて今一遍御立ち戻りあらせられて御天覽を賜りましたのであります。研究者たる學生澤口君は勿論本校學生の光榮是に過ぎたるものはないのであります。

それから林三、吉江君の日向産附着性菌の良き標本十六種も農三、飯田君の是亦良き採集標本日向のスマレ三十種も大御心にとめさせられて天覽遊ばされ農一竹田茂生君の滿洲産特種植物も御天覽になりました。かくて生徒の陳列品を全部天覽賜はりまして遂に第三拓殖訓練所の教育材料たるブラジル國の土壤や農産物等に御移りになりました。茲で「こちらは第三拓殖訓練所の教育材料として集めました所の標本を陳列したものでござります」と申上げまして、木田先生の土壤の研究に就きまして簡単に御説明申上げましたが御興深げに御天覽になり、「うん」と御肯きになりました。農産物に就ては「是は在伯邦人の栽培致しました農産物で御座ります」と簡単に申上げまして御先導申上げつゝ御説明申上げましたが此等在伯邦人の農産物にも御立止まり遊ばされて御天覽を賜りました。然し時間が益々延長致しますので恐懼しつゝ御急ぎを願ふやうに御先導申上げ其の他伯國産殊にアマゾン地方産の珍しい標本のカスターヤ、カカオ、クレーヤ等を

天覽遊ばされバラナ松のスタンドに電燈を灯して綺麗な柰目斑紋の現はれて居る様や蟻喰の剝製、ミミヅクに擬態する蝶の標本さてはアマゾン流域の奥地にて採集せられたる蜘蛛の巢等をも急ぎ天覽に供しまして後、之れから御先導申上ぐる農場を圖上で豫め御説明申上げ、直ちに農業博物館から御出ましを願ふた次第であります。かくて私は已に室外に先行致しておりましたが、其處に研究者が再起立して感激の涙で奉送申上ぐるのに對せられまして御振り返り遊ばされ御叮嚀なる御會釋を賜つたのを拜したので御座います。研究者に對せらるゝこの優渥なる大御心に拜接致しまして唯々感激の外は御座いませんでした。

斯く致しまして此の農業博物館内學生及教官研究品、第三拓殖訓練所教材等御天覽の爲めに―これは勿論後になつて初めて知つたのでありますが―御豫定よりも實に二十餘分間の長きに互り當館内に玉歩を止めさせ給ふた次第で御座居ます。二十餘分間と申せば此時間丈けで已に一官廳等への御駐輦の全御時間にも當るのであります。

此の農業博物館は前にも申述べましたやうに本校卒業生の母校へ捧ぐる赤誠の結晶であります。此の度圖らずも此の無窮の光榮を新築落成の直後に仰ぎ得ましたと云ふ事は決して偶然の事象では御座いません。實に至誠神に通じたる結果に外ならず、卒業生諸君の感激、思ふだに恐懼の極みであります。此の上は夫々此の聖恩の萬一に應へ奉らん爲めに卒業生諸君が夫々の天職に於いて益々忠誠事に當られん事を母校々長として衷心祈る次第であります。

扱て愈々室外に御出ましになりました處に農業博物館前の池の中に大鰻が入れてあります。之はほんの

御興を添へ奉ることが出来ればと云ふ徴志で二尾の大鰻を彼處に放つて置きましたもので、「是は本縣南那珂郡市木村で捕りました大鰻で御座ります」と御説明申上げました所、御興味御深げに御覽になりました。又その附近に配置してありましたカモンカの皮、それから地頭鶏は殊に御興味御深く御天覽になりました、又農二豊島君出品の大島産の蘇鐵を天覽遊ばされました。それから農場へと御先導申上げまして「是から本校生徒の粟刈の實習を御天覽に供します」と申上げまして愈々農場内に玉體を拜しましたが此頃には私は一層御時間の事が氣にかゝりまして知らず／＼の間に足歩が速かになりました。其間 陛下に於かせられては畏れ多くも玉歩を止めさせ給ひ農場で實習を奉仕して居られた學生諸君が最敬禮を致して居ります間、ずつと御叮嚀なる御會釋を賜つて居られます。此の御様子が畏くも各新聞社謹寫の御寫眞に入つて居りますが御先導申上ぐる私の影は何處にも見付かりません。當時の私は夢中でありまして、陛下は直ぐ御後に玉歩を運ばれつゝあるものとのみ思ひまして只管御先行申上げて居りました爲に、御先導なしの御尊影が謹寫された次第であります。やつと氣がついて暫らく佇立して玉體を間近に拜し奉るを御待ち申上げまして再び恟々乎として農場の御歩道を北に折れ御先導申上げました。折れ廻りましてから簡單に「本校の農業實習の組織は一つの學級を一户の農家に擬らへまして、一學級に一町二反乃至一町四反の田畑を分擔致させ經營上の全責任を負せまして計劃から一切の運営や生産物販賣收支算迄一々報告致させて居ります」と申上げますと「うん」と深い御肯きを賜りました。其の後は私は只管に眞直に御先導申上ぐる氣持で御先導申上げましたが尙ほ陛下に於かせられては清砂を敷ける御歩道を御通り遊ばされずにヂグザグに農道をお歩き遊ばれましたが、親

しく各區劃の畑地に立てられたる御説明の立札を御天覽賜はりました。そうして私は多くの區劃の中或一區劃を一例として「一區劃の土地は面積が約一反で御座りまして前年の作物は斯々、本年前作の作物は斯々、其の各收支計算は斯々で御座ります」と御説明を申し上げます。

それから葱の土寄せの實習が間近になつて参りましたから「是は葱の土寄せの實習で御座ります」と申し上げます頃は、實習生の諸君が最敬禮を致しました。陛下には再び長くも御佇立になり御叮嚀なる御會釋を賜はり私は又しても恐懼感激の裡に御待ち申上げねばならなかつた次第であります。それから農道を東に折れて玉歩を仰ぎつつ、私の研究中の飼料作物の一區劃につきて簡單なる御説明を申上げその約一反歩の區劃から生産する生草に依りて現に飼養中の乳牛を一時繋留せる場所に御先導申上げましたが畏れ多くも陛下には御歩道を外づされて乳牛の方に玉歩を運ばせ給ひ出陳の乳牛を御天覽賜はりました。實に何とも申上げやうのない感激であります。

それから農場事務所の前を御先導申上げながら「本校は畜産學科が特色の學科になつて居りまして、他の専門學校には此の學科は御座りませぬ。是から畜産學科の畜産製造研究室に御先導申上げます」旨を言上致しまして齋藤先生の研究室に御先導申上げました。

茲からは一層御時間が心配になりますので「是はバター、チーズの製造工程で御座ります」と云ふ風に御先導申上げながら名稱のみ申上げまして、豫定の御説明を省略申上げたるに拘はらせられず長くも顯微鏡まで御天覽を賜はりました。出陳者の齋藤先生も顯微鏡は最初から御天覽戴かない豫定でありまして、研究成

績出陳の順序上已むを得ずヴィタラム製造に使用する乳酸菌二種のプレバライトを顯微鏡二臺を以て御備へして置いたに過ぎなかつたのでありますが、二臺とも説明書と併せて一々御天覽になりました。之れで顯微鏡は都合十臺全部御天覽を賜はりました次第で此の點を考へましたのみでも極みなき御聖徳の程が偲ばれました。誠に感激措く所を知らないもので御座います。それから燻肉の貯藏力の研究を天覽遊ばされました。これも簡單に研究の題目を申上げたのみでありましたが御注目を賜はりました。次に豆腐チーズ、次に豚體の肉質、骨格の各部位の化學成分、殊にゼラチンの含有量の研究を天覽賜はり、最後に家畜飼料類の榮養價決定の研究を御天覽賜はりました。遂に本校陳列品天覽を終らせ給ふた次第で御座ります。

天覽出陳等の種類と申し又其の出陳數と申し又玉歩の距離や範圍と申し相當廣きに互る御先導でありまして誠に恐懼の外は御座りません。

斯く致しまして研究室から竹林内を御先導申上げながら「是は南九州方面の特有の竹を集めました竹林の見本園で御座ります」と申上げ陛下には御通路の兩側を御天覽遊ばされつゝ通御あらせられました。そして正に竹林をお出ましにならんとする頃に運動場に於て整列せる學生諸君に對する指揮官の「氣を付け」の號命が御聽聞に達しまして御注意を其の方にお向け遊ばされ、遂に諸君の双眼咫尺の間にお待ち申上げた神々しき御英姿を仰ぎ奉りあの千載一遇の感激の瞬間に到つたのであります。

茲で私は御先導を本縣知事に御譲りし知事の御先導で運動場に出陳せる本縣産馬匹の天覽に御移りになりましたが其の御模様は諸君が目前に奉拜された通りであります。

馬匹の御天覽を終らせられて私は再び御召しの御自動車に乗御遊ばさるやうに御先導申上げ、諸君の最敬禮裡に天顔いとも御麗しく運動場を御發御になつた永遠に消えない難有い無上の光榮と感激を胸一杯に抱きつゝ鳳輦の御影が遙かに校門を御通御になるまで諸君と共に直立不動のまゝ奉送目送申上げた次第であります。そうして一同の双眼は譬へ様もなく神嚴なる感激の涙に濡れ、滿庭の百草一木悉く今日の光榮に戦いたのであります。

斯くて本校御駐轡行幸の總時間は實に一時間五分、御豫定の四十分より正に二十五分間を御延長遊ばされまして本校の空前にして或は絶後とも申上ぐべき御盛事は何等の滞りなく終了を告げたので御座います。そして飄然として我に返つた時には全く光明の新世界に蘇生せる思ひでありました。

何れに致しましても二十五分間も御豫定を御過ごし遊ばされましたことは決して唯だ事では御座いませぬ。恐らく未曾有の御事と拜察致されます。實に本校に取りましては何とも言葉で申上げることの出来ませぬ光榮と感激の極みであります。

奉送申上げました後、中學校へ行幸の警戒線が解除されるや否や、私は宮崎神宮に參拜致しまして、正に神明の加護を以つて此の限りなき聖恩に浴し無事大責任を全うさせて頂くことを得ました御禮を恭しく神靈に奉告申上げました。

それから御親閲場に參つたのであります。御親閲の成績は諸君自身には分らぬが當然です。私も亦玉座から大分南に寄つた位置で陪觀して居りましたから、本當に諸君の感激の最高調の場面を陪觀することは出来

なかつたのでありますが、多くの人々の評判に依りますると御親閲の成績は極めて立派であつたと云ふ事で、各種學校生徒御親閲の中堅を以て任じて居つた本校と致しまして此の點特に御同慶に堪へぬ次第であります。

御親閲を終へさせられて行在所御歸還後間もなく御禮言上の爲め行在所玄關に伺ひ、相次いで獻上品の上納の爲め再び行在所に伺候致しました。然も其の夜更に私は長くも縣下功勞者數名と共に御陪食の光榮に浴したのであります。

御陪食の御召しは午後六時半で御座いまして時刻の到來と共に御陪食の御室に案内せられ一同の最敬禮裡に陛下には玉座に御着席遊ばされました。席次は玉座の御右が侍從長で、直ぐ其の右隣に私が席を戴きました。

愈々結構な難有い御料理を頂戴致すことになりましたが、其の間度々宮内大臣と侍從長から學校に關する事や陳列品の一、二に關する事、私の飼料作物試験に關する乳牛の事等の御質問を頂きまして野人禮にならずと申しますか、私が之れにお答へする御粗末な應答を陛下が玉座から御肯き遊ばされつゝ御聽取賜はるのを奉拜して辱なさに恐懼感激して爲すを知らなかつたのであります。これは退下後一層冷靜なる意識を以つて思ひ起しました時、愈々慚汗に堪へないものが御座いました次第であります。

御陪食が済みますると諸員最敬禮の裡に陛下には御機嫌麗しく御退御に相成りまして、更に續いて御別室で御茶の御席に御案内を頂きました。此のお席では如何にも御打ちとけられたる畏れ多い御溫容を僅か數

尺の間に仰ぎ拜することを得まして各員の奏上する種々のお話しを陪聴致しつゝ、數十分の御茶の時間を戴いた次第であります。

乃ち各員が一人々玉座の御間近かに進み出で、いと御寛ろぎ遊ばされた。陛下の御前で夫々自己の職名と名前を御名乗り申上げまして、二分間以内で各自所管状況の概要を奏上致しました。

私が御前に進み出ました際は、本校は此日已に一時五分と云ふ御長い時間御駐輦を戴き一々研究品の御天覽を賜はり且つ親しく我が学校教育の状況をも奏上申上げし事なれば此の上更に天聴に達しますことは誠に恐れ多い事と存じまして唯御禮を言上致します積りで御前に進みました次第であります。そうして「臣は宮崎高等農林學校長の松岡忠一でございます。本日は本校に御臨幸を仰ぎ非常な長時間に互らせられ御天覽を賜はりました。學校内の微臣等が深く感激致して居ります。其れにも拘りませぬ。微臣は甚だ淺學でござりまして、充分な御説明を申上げることが出来ませんで御座りましたのは洵に恐懼に堪へませぬ。何卒御赦しを御願ひ申上げます。茲に謹んで御禮を言上致します」と、單に之れだけ申上げまして、直ちに退下すべく最敬禮に移らうと致しました所、陛下には御にこやかな御微笑を湛へさせられまして「今日は時間が非常に短かくて皆の熱心な研究を充分に見ることが出来なかつたのは甚だ残念であつた」との申上げやうもない難有い御言葉を賜はりました。

此の時の御模様は到底私の言葉で言ひ現はす事は出来ない、否、どうして之れを表現致すことが出来ませうぞ、私は唯々感涙に咽んだ次第であります。私は最敬禮を致しまして感涙に咽び乍ら頭を擽げ得ず低頭の後退下して着席致し稍々あつて漸く頭を上げました次第であります。

一時間五分、實に長い時間、而も御豫定を二十五分間も御延長頂きました事は已に私共にとつて唯々感激の極みであつたのでございます。その上に今此の難有き御説、何を以て此の宏大優渥なる聖恩に酬い奉らんや、唯教官各位と學生諸君と私とが一體となつて忠誠奉公を勵む以外に聖恩の萬分の一に酬い奉る術はないのであります。

陛下の大御心を謹解奉察する事は平素も申す通り臣下として不忠の極みである。然し乍ら此の優渥宏大なる大御心を、陛下が我校の専門とする農學や乃至生物學に御趣味を有せられるといふ周知の御一事によつて奉察し盡し奉ることは不可能である。もつと／＼深奥なる御思召しの存するものと奉察せざるを得ない。それは學問研究者、學校教育者等に對せらるゝ特別の大御心、否そればかりでなく、實に神代より御歴代を通じて農を以て國の基礎根源となし給ふ所の御歴代御精神の自然の御發露と奉察申上ぐるのであります。諸君も御承知の如くに、今上陛下には長くも宮城内に御水田を設けさせられて御自ら御勞働遊ばさるゝと洩れ承ります。一部の人々は此の難有き大御心を御付度申上げて御趣味と申上げて居るやうにお聞きして居ります。前申上げし如く大御心の御付度は臣下として不忠であります。而して私は農業に注がせられる大御心、それは實に神勅に宣せられたる大御心であり、又神代の御歴代と人皇の御歴代とを通じて今日も尙御傳へ遊ばされて居ります所の大御心であると、私は有り難く感激を以て日常奉拜して居るものであります。

最後にさきに申述べた通り私は本校教育の概要を奏上申上げました。赤誠を傾けて本校教育の眞實を奏上

申上げました。此の奏上申上げた本校教育の方針は、本校に取りましては素より不動の方針でありまして教育勅語の御聖旨を奉戴して定めたる教育方針でありますから諸君の萬承知の事でありましたが諸君の修養に資する爲めに其の内容を謹んで御傳へ致して置きたいと存じますから一同起立を願ひます。

謹ンデ宮崎高等農林學校ノ教育ノ狀況ヲ奏上申上げマス

本校ハ十一年前ニ創立致サレマシテ農學科林學科畜産學科カラ成リ立ツテ居リマス其後宮崎縣ノ委囑ニヨリマシテ宮崎縣青年學校教員養成所ガ附設致サレ更ニ昭和八年殖民教育ノ爲ニ第三拓殖訓練所ガ附設致サレマシテ今日ニ及ンデ居リマス

本校ノ教育ノ方針ハ教育勅語ノ御聖旨ヲ奉戴致シマシテ忠誠ナル人物ヲ養成スルヲ以テ教育ノ根本義ト致シテ居リマス

道德ノ實踐ニハ克己ノ精神ガ基礎トナルモノト心得マシテ農業實習ト學校教練トニヨリテ己ニ打チ克ツ精神ヲ涵養致シ質實剛健ナル人物ヲ陶冶スルヲ以テ訓育ノ主眼ト致シテ居リマス農業實習ハ單ナル技術ノ練習ニ止メマセズシテ精神修養ノ手段ト致シマシテ特別ニ重要視致シテ居リマス

次ニ學術教育ノ方針ハ 聖上朝見ノ御聖勅ヲ奉戴致シマシテ生徒ノ創造力ヲ養成スルコトニ力ヲ注イデ居リマス即チ制規ノ時間以外或ハ休日等ニ各自任意ニ自然科學等ノ研究ヲ致シ夜間ニ學會ヲ開イテ其ノ研究成績ヲ發表致シテ居リマス毎年三十數回ノ夜間集會ガ催サレマシテ其ノ效果ノ見ルベキモノガアルヤウニ存ジテ居リマス

次ニ體育ニ就テ申上げマス農業實習ハ他ノ一面ニ於キマシテ體育ヲ助クル力自ラ大ナルモノアルヲ認メマス爲ニ競技ニハ殊更ノ力ヲ致シマセンガ武道ハ特ニ獎勵致シマシテ體育ト德育トニ資シテ居リマス尙生徒ノ保健衛生ノ爲ニ校舎内ヲ清潔ニ致シ更ニ校庭等一切ノ環境ヲ淨化致シマシテ生徒ノ情操教育ニモ併セ資シテ居リマス

卒業生ハ一千十八名デ御座リマシテ殆ンド就職シ内地各府縣各殖民地滿洲國ヨリ遠ク南米ニ及ンデ夫々發展ヲ致シテ居リマス

本校ノ職員ハ或ハ自ラ勞働ニ服シ或ハ熱心ニ學術ノ研究ニ從事致シ身ヲ以テ生徒ヲ率イ其ノ研究成績中ニハ廣ク國家ニ貢獻セルモノモ少カラヌヤウニ存ジテ居リマス

本日ハ畏クモ御臨幸ヲ仰ギ本校内ノ實況ヲ御天覽ニ供シ奉リマス光榮ヲ辱ウ致シマシテ微臣等一同誠ニ恐懼感激ニ耐ヘマセン今後一層奮勵努力致シマシテ聖恩ノ萬分ノ一ニ酬イ奉ランコトヲ深ク心ニ覺悟致シテ居リマス

右は奏上の内容であります。斯様に赤誠と共に奏上申上げその間は所謂奏上三昧で何事も念頭になく、而して何事の在はずかは分りませぬが奏上の最後は唯感激の涙と共に退下致したのであります。

其の夜文部大臣を旅館に訪問致し本日大任無事終了の挨拶を申上げたるに奏上申長くも側近に侍立せられた大臣から

「陛下に於かせられては君の奏上中に何回となく畏くも御肯き遊ばされたぞ」と拜承致しまして、誠に有

り難く再び感激の涙に暮れました次第であります。

此の奏上の中に「忠誠なる人物を養成するを以て本校教育の根本義と致します」と申上げ又克己の精神を涵養するを以て訓育の主眼と致すと申上げて明かに「教育の根本義」と「訓育の主眼」とを區別して奏上申上げてあります。此の兩者を區別して申上げた趣旨は深長であります。此の區別を致した趣旨は、訓育も體育も共に忠誠なる人物を顯現せしむる手段に外ならぬ、従つて一切の科學を勉強する諸君も、又此の一切の科學を教へて下さる教官各位も此の科學を一手段として忠誠なる精神を學生諸君に顯現することを大目的と致して居ると云ふのであります。本校の教育の根本義は實に忠誠なる人物を陶冶するにありませぬ。

忠誠なる精神は決して軍人特有の精神ではありません。それは身分職業の別なく日本國臣民たる者の深く内に培ふべき普遍的精神であり、従つて一切の教育の目的も畢竟此處に歸着し盡すのであります。

而して私は平素抱懷して居る主張の一として、忠誠なる精神の最大なる貯藏所は農村であると確信致して居ります。吾が國に於て、遠い神代の昔より今日に至る迄 歴聖皆一方ならず農業を御尊重遊されまされて之れが吾が國體の重要な一面をなして居りますことは諸君の熟知する所であります。現に此の度の行幸を了へさせられたる 陛下に於かせられては、二十一日に宮城に御還幸遊ばされて御疲れを休め給ふ御暇もあらせられず、其の翌々日新嘗祭の御儀を執り行はせられるのであります。此の新嘗祭は實に宮中の最も重き御大祭であります。陛下に於かせられては寒夜夜を徹して賢所御神殿にお籠りになり新穀を 皇祖 皇宗の御神靈に捧げ給ふので御座いまして、實に長くも農業御尊重の御精神の籠らせられたる御祭典であり

ます。宮中に於いて最も重い意義を有する二大祭は此の新嘗祭とそれから二月十七日の祈年祭でありまして、此の祈年祭は御承知の如く農業の豊作を各御神靈に御祈りになる御祭であります。斯くの如く宮中の最重の二大祭が共に長くも農業御尊重に關する御親祭であらせられると言ふ事は決して唯事ではないので御座いまして、之を只單なる古式の名残りとか形式的傳統とかに過ぎぬものと考へる者が若し有りて致しませばそれは大變な淺見と言はねばならぬのであります。

惟ふに、如何なる哲學者と雖も、又如何なる科學者と雖も農業が人生の根本義たることを否定することは不可能であります。近世史に入りましてから農業が商工業と同様に一種の産業とせられたのでありますが私は農業を其の本質上商工業と同列に置き得ないものと思ふ。即ち農業を以つて全くの經濟本位の産業とは考へられないのであります。寧ろ農業を經濟本位の他の産業と同一視する處に現在の如く喧ましい農村の經濟問題が起る種々の原因を見出すものであります。農業には經濟的職業離れのした天業的な要素が多分に含まれて居ります。農業は局部的な分業的な生産業と見做さるゝには餘りに人生そのもの、社會そのものにとつて根本的、全面的であります。他の如何なる産業も如何なる職業も之を度外しては決して成立つことが出来ないのであります。此の意味に於いて農業即ち或狹義の人生と申しても敢へて過言ではないと信じます。即ち此處に謂ふ所の人生とは、人爲的文明によつて汚濁されて居らぬ所の、醇乎たる本然の姿に於ける人生を指すのでありますから、此の環境裡に於いて又醇乎たる人間精神の發達開花を見、就中家族制度の整備と共に郷土尊重、延いては至誠愛國と言つた様な飽く迄も素朴にして忠誠なる農民精神が此處に豊かに貯藏せ

らるゝに至ることは學者の教へを俟つ迄もなく明瞭であります。

されば我が皇軍の強さが農兵に負ふ所極めて大であると言はれるのも故ある哉であります。大砲も軍艦も飛行機も各種の科學兵器も科學の力と金さへあれば何時でも出来るが、一度精神的貯水池を涸らしては多くの忠誠なる人物の輩出は甚だ容易でない事になる。斯く考へまする時に 陛下が或は御歴代の御祭事を尊重せられ、或は御親ら水田をさへ御親裁遊ばされ、更に今回は特に日向の農民の生活を各方面から天覽遊ばされました御聖旨の程は奉拜するだに畏れ多い極みであります。世界の人類生活には再び農業尊重の時代が来るものと信ずる私にとつては以上謹述せる 陛下の輝かしき御聖徳中には私共の言上する事の出来ない、即ち凡ゆる言説、凡ゆる理論を以つて明かすことを得ない何事かが在しますことに感激する外はありません。

物質文明を今日の如く興隆せしめました科學や工業の發達を私は決して呪ふものではありません。否、大いに尊重するものであります。本校でも朝見の御聖勅を奉戴して一般科學的智識の教育を隆んにし依つて以つて農業を發達せしめやうと大いに努力して居ります。天覽に供した出陳物の如き皆科學研究の結果に外なりません。然し此の事は今私の申述べた事と矛盾して居るとは考へない者であります。

今や已に本校は創立以來十周年を迎へ其の記念式祝典を目睫の間に即ち明年一月十四日に舉行せんとして居ります。

過去の十年間は實に今回畏き行幸に際し御前に於て奏上申上げました通りの本校三綱領に依る計畫的校風樹立の時代でありました。御承知の如く此の三綱領は昭和三年御即位の大典直後來るべき十周年を期し理想

的校風の樹立を目標として宣言せられたものであります。而して今其の豫定の創立十周年を目睫の間に迎へんとするに當つて今回空前の光榮に際會致したのでありまして、茲に本校は更に此の校風に一維新を加へなければなりません。即ちこの無窮の聖恩を永久に記念する爲に忠誠なる人物を養成するに一層効果的な道場たらしむべく本校を改善向上せしめねばなりません。而して諸君は既に本校を卒業せる諸君の先輩諸氏に依りて樹てられたる校風の裡に其の各自の人格を陶冶せられつゝあるのであります。私共のやうな未熟な徳の足らない不完全極まる人格に依つて諸君を陶冶するといふ事は到底望み得ない。我々は唯校風の力に依つて諸君を教育せんとするものであります。

即ち諸君を作りつゝあるものは諸君の先輩の残した校風である。故に諸君は小にしては先輩の恩に報じ大にしては今回の絶大なる聖恩に報いんが爲めに、諸君の後に來る諸君の後輩、即ち將來次から次と限りなく入學し來る新入生に對して忠誠なる人物を陶冶するに更に一層効果的な校風を残してゆかなければならぬのであります。

是が即ち聖恩の萬分の一に報い奉る所以である。斯くて自己自身も忠誠なる人物となり、更に進んでは諸君が社會に立つて忠誠なる人物の貯藏所であるべき農村を背負つて立ち前述の如き農村の眞面目を、農村の眞價値を一層躍如たらしめる所以ともなる次第であります。

今頃は畏くも 陛下に於かせられては既に鹿兒島灣頭を御出航遊ばされまして、太平洋上を御航海中であらうと存するのであります。

茲に諸君と共に無上の聖恩に感泣しつゝ、陛下の一路御安泰を御祈り申上げまして今日の謹話を終ります。

三〇

行幸を仰ぎて

農三四位 行正

春秋に富ませ給ふ 今上陛下を戴き奉る昭和の御代の一人として、私は實に名狀すべからざる光榮に歡喜し本稿を草すべく机に向ひました。

今上陛下の御英明にあらせられることは國民の熟知する許りでなく、世界の隅々迄普ねく知られてゐる所であります。この 聖天子の御代に生を享けた我々昭和の民は眞に幸福であります。

建國以來歴代の 天皇は農民を『おほみたから』と呼ばせられ尊重されて居ました如く、建國の大精神は農耕の振興にあつたと申します。昭和の御代になりまして、長くも一天萬乗の 大君が皇居に水田を作らしめ給ひ、御親ら泥田に下り立たれて、親しく稻苗を撫育し給ひ、御親ら鎌を御手に刈入れ遊される御事は農民愛撫の大御心によるものと、聖恩の辱けなきに感泣措く能はざるものがあります。斯くの如き御日常の御一端を私は新聞により、宮内省當局又は高官達の謹話或は新聞記者が遠く高く仰いだ觀察記により洩れ承つて居ります。

一天萬乗の 大君を我等が學園に御迎へ奉り、目の邊り御麗はしき天顔を奉拜するの光榮に浴したのであります。今上陛下を戴き奉る昭和の御代、こゝに生を享けた我々の歡喜、我々の光榮、何ものか之に過ぎ

るものがありませう。

願れば去る四月宮崎へ行幸の趣を拜し、次いで我が校に行幸の御内意を承りまして、我々は欣喜雀躍只此の行幸の日を一日千秋の思ひで待望致しました。そして學校の清掃淨化は言ふ迄もなく、益々精神の緊張を加へ心の修養を怠らず、日夜 陛下の御英姿を胸に秘めて來るべき其日を待つて居りました。宮城御發轍の日、我々は宮崎神宮に御安泰を祈願し奉り、八重の潮路の御恙なきを祈念し奉つたのであります。此日祖國日向の秋空には瑞雲棚引き秋風をぐるに揺れて各戸には翩翩と國旗はためき、神武の森も一段と神々しく感ぜられました。

十四日、待望幾久しかりし光榮の日は來ました。此の日朝霧に明くれば一面の霜、黎明の大氣肌寒きも靜かに榮光に浸つて秋空一碧、陽光また和やかにさんさんと滾れ注ぐ絶好の行幸日和、天覽粟刈作業の光榮に浴しました私は午前六時に起き出でて先づ冷水で身を淨め、祖先に今日の佳き日を告げ、次いで神社に參拜して玉體の御恙なきを祈り、更に 陛下下まします行在所を遙拜しました。初霜の曉方、太陽は靜かに昇る。何と言ふ壯嚴な朝あけでせう。學校内の清掃淨化は言ふ迄もなく歡喜と感激の雰圍氣に包まれてゐる。聖駕奉迎の日は遂に來ました。今日こそ聖駕を咫尺に仰ぎ奉ることが出来るのです。皆の顔は張られた弓の様張り切つて居ます。

陛下は長途の御旅もいとせられず、而も御風邪も未だ御全快あらせられぬに本校に玉歩を運ばせ給ふ。私達は農場で御英姿を御迎へしました。氣を付け。最敬禮…… 陛下には擧手の御答禮を遊ばされる。おゝ

何と云ふ輝かしき御英姿でせう。其の刹那の神々しさ、輝かしさは何と名状してよいか、到底私の拙き筆を以つて傳ふることの出来ない史的情景でありました。私は只々恐懼感激身の置き所を知らず、松原先生の『作業初め』の聲を夢の様に聞きました。畏くも陛下に於かせられては此の間作業を御熱心に御覽遊ばされ路傍の立て札にも一々御注目を給はつたと洩れ承り聖恩の辱けなさに感涙の自づと流れるのを禁じ得ませんでした。

噫、我れ生ける甲斐あり。畏きに涙こぼるゝ。私は皇國日本に生を享けたるの幸福を明確に認識しました。本日無上の光榮を忝う致しました事は本校現在の光榮であるのみならず、本校の歴史の上に永久に輝かしき光を放ち、且つ本校將來の發展の爲めの強大なる原動力となり、一大記念塔となるものであります。今や皇國の國運は前途洋々たるものがあると共に内外頗る多事多端、吾人に些の懈怠をも許さない。夏草の萎れ勝ちなる私の道心も、今日一天の慈雨に浴して蘇生するが如く感じました。私は此の光榮と感激とに奮起致しまして長へに之を胸に留め、今日より更生の意氣を以つて新しき心境の上に自己の生活を打ち建て、最善の努力を天皇陛下に捧げ、以つて鴻恩の萬一に報い奉らんことを堅く期するものであります。吾等は眞に英明なる陛下を戴いて居るのであります。新日本の躍進的發展、國運の飛躍的轉向は正に此の昭和の聖代に於て達成されねばなりません。私は此の光榮の日の感激を永久に胸に留め、生涯の活動のエネルギーたらしめんとするものであります。

十五日。聖駕今日古帝州を後にして鹿兒島に向け給ふ。午後一時四十五分。氣を付けの號令、そして秋

雨しめやかなる裡に靜々と御召列車が視界に現はれる。最敬禮。陛下に於かせられては御車内に御起立遊ばされ吾々民草の上に御注目を給ひました。噫、我々は感激の熱涙の双頬に流れ下るのを覺えました。又しても我々はいとも尊き現人神の御姿を咫尺の間に奉拜するの光榮に浴したのあります。畏くも陛下には人を魅し給ふ御徳があります。之れを御神徳と申上げずして何と申上げることが出来ませう。

此の日陛下を奉送して再びまた此の感激に會ふは果して何時の日ぞ。しとゞ降る秋雨は聖駕に御名残り惜み奉る我等の切なる心情にも似ていとゞ感激的な情景を現出し、遠ざかり行く御召列車を御見送り申上げた時私の眼は只に潤ひ胸は深い感動に震へるのです。それは皇國日本の世界に冠たる根源を今眞に掴み得たと言ふ其の感動に外なりません。

噫、遂に御召列車は我等の視界を去りました。そして私は竹の園生の御榮えを御祈り申上げると共に、皇國の繁榮進歩を強く強く祈念したのであります。

行幸感激記

林三吉 江清朗

今回本校に聖上陛下をお迎へすると言ふ事を耳にした時私は何と言つてよいか分らぬ程の感激に包まれました。時日の經つに従ひ御親闈さへあると洩れ承つた時の嬉しさ、只々感激の涙のほとばしる思ひでありました。

願れば七月植物採集に行つた時より十一月の當日に至る迄、私は嘗つて味つたことのない激しい緊張を覚えて、誠心誠意萬端の準備に精進致しました。入學した當時は夢想だにしなかつた光榮、又此の世に生を享けて以來想像も出来なかつた無上の光榮を味ふ喜びに心は躍り立つ許り。殊に自分の採集品の一部が辱けなくも天覽に供せられるといふことは一身に餘る夢の様な光榮で、將來私として再び求めても決して得られないであらう千載一遇の機會に相違ありません。

愈々當日、一生涯否七生忘れ得ざる光榮と感激の日が來ました。校庭に御待ち申上げること四十分。時刻は次第に過ぎて行きますが、陛下には仲々御英姿を御現はしにならない。屹度博物館で時間をとつて居らせられるのであらうとは考へても何となく心配でなりません。御先驅の山本先生が竹林の方から出て來られた時は既に私の體中は氷の様になつてしまひました。そして遂に校長先生の御先導で運動場の一端に玉歩を運ばれ、最敬禮の前後に御輦に乗らせられた。陛下の御英姿をいと間近かに奉拜することの出來た時は唯々恍惚とした感激以外の何者もありませんでした。又御親閲の際も同様に自分が現世にありや否やを疑はれる程の感激に包まれました。

後日校長先生より當日の詳細な模様についての謹話を承つた際にも亦感涙に咽んだのであります。天覽の羊齒園には自分の採集して來たものも何株かありますし、同じく蔓性植物の幹の過半数は自分の手に掛けたものでありまして、之に玉歩を留め給ふたと言ふに到つてはもう感激の頂點に達し、今迄の勞苦の總ては報いられた過ぎたと申す外ありません。

今回かくも間近かに龍顏を奉拜し、且餘りにも過分の光榮に浴することを得たといふことは自分にとつて一生の尊い思ひ出であると同時に、聖恩の萬分の一にも報い奉らねばならぬと臆に銘じつゝ、更に一層の努力を以つて今後の生涯を送りたいと考へます。

此の感激を故郷に獨り住む母に詳しく知らせてやつた時の母の喜びの返事は、どうしても泣かずには讀めないものであります。自分が今回の光榮に浴することの出來たのは固より諸先生の御指導に依る所大であります。母の背後からの援助も忘れることの出來ないものでありまして、今更らに感謝の心を強めて居る次第です。

行幸を仰ぎ奉りて

畜三園 田 正

生涯忘れることの出來ない昭和十年十一月十四日こそ、千載一遇の機會、本校が行幸の光榮に浴し唯々感激の極に達せし思ひ出の日なのである。當日の朝凡ての人の心は張り切つてゐたであらう。

一時間五分に互る行幸の間こそ私は唯我的狀態であり、神性そのものであつた。その時の氣分を振り返る時言ひ知れぬ感に打れる。畏れ多くも陛下には天覽品の御研究いとも御熱心にわたらせられたる事を洩れ承つては、唯々畏れ多く痛く我々の心を撃つものがあつた。かくして二十五分も御駐輦時間を御延長遊ばされたるこそ誠に光榮この上もなき事である。

無事行幸を終らせられし時、満面感激に溢れられたる校長先生の御顔を拜した時私は自から感激の涙の抑へ難きを感じた。

それから我等は御親閲を受け 陛下の御前に倒れるの覺悟で勇往邁進したのであるが、其の時の全部の氣分こそ一の雜念なく打つて一丸とした無我の境地だつたと思ふ。而して長きに互る全部の分列の濟む迄直立不動、微動だもなし給はず、一々御丁寧に擧手の禮を給はる御臺上の御尊姿を拜した時、私は又もや腹の底より湧き出づる感激の涙に咽ぶのだつた。と同時に唯國家のため、陛下の御ために身を挺するの覺悟、没我の精神の躍動を禁じ得なかつた。

斯くの如き光榮感激こそ自己の將來への覺悟を一層確固不動のものたらしめたのである。實に有難き極みである。即ち私は此の光榮によりて蘇生したる祖國意識を振起擴充して眞の日本に對する自覺を高め、東洋の平和を確立して以つて世界人類の繁榮發展に奉仕せんとする民族的信念と勇氣とを痛切に咬られた。我國民たるものは緊禪一番々々其の分に勵み昭和の國民として天與の試鍊を感謝しつゝ先輩の遺業を紹述し次代の國民への餞としなければならぬと痛感せられるのである。

時正に十周年を迎へんとする本校はこの一大光榮事に遇ひ一時代を劃し、急テンポの發展を遂ぐるものと信ずるものではあるが、我等學生も亦より一層の緊張味と努力とを以つて學生の本分を貫徹し、確固不動の校風樹立に心すべき一大チャンスなりと信ずるものである。

我等は將に後二ヶ月にして本校を去らんとしてゐるが我等の魂は永へに本校を去らない。而して最終學年

而も學窓生活の最後に於て際會せし此の一大光榮事こそ幸運の至上なるものであり、生涯我等の胸底にこびりつき社會の萬難萬苦の度毎に必ず斷固たる信念と勇氣とを與へてくれるものと深く信ずるのである。餘りの光榮、餘りの感激に私はこれ以上述べる事を知らない。唯自己の精神は如何なる感激の言をもつてするも到底その幾分をも述べ難き事を公言して止まない次第である。

奉迎日誌

三月二十日 今秋十一月鹿兒島宮崎兩縣下ニ於テ舉行セラルベキ本年度陸軍特別大演習並ニ海軍特別演習御統裁後地方行幸ニ際シ、本校ヘモ行幸ヲ仰ギ度ク、文部大臣宛配慮方ヲ上申ス。

五月二十一日 元侍從職御用掛坂口鎮雄氏ヲ招キ「兩陛下ノ御日常ヲ拜シ奉リテ」ト題スル特別講演ヲ聽ク。

六月六日 下檢分ノ爲メ黒田侍從宮内省本多行幸主務官一行二十二名來校ス。

六月十九日 職員會議ヲ開キ奉迎準備ノ分擔ヲ定ム。

六月二十六日 學生職員備人同家族全員ニ對シ第一回腸壘扶斯豫防注射ヲ施行ス。

六月二十八日 奉迎ニ關スル打合せノ爲メ校長鹿兒島市ヘ主張、第七高等學校造士館長、鹿兒島高等農林學校長ト協議ス。

七月一日 第二回腸壘扶斯豫防注射ヲ施行ス。

- 七月五日 天覽品目、陳列場所及陳列方法ニ付キ協議ス。
- 七月六日 職員學生一同宮崎神宮ニ參拜ス。第三回腸窒扶斯豫防注射ヲ施行ス。
- 七月十日 本日ヨリ第一期警備ニ着手シ、主トシテ校内要所ノ檢索、修理等ニ當ル。
- 七月十五日 供進スベキ御料とまとヲ本校ニ委託スベキ旨縣ヲ經テ通知ニ接ス。
- 七月二十九日 御料とまと栽培地修被式ヲ舉行ス。
- 七月三十一日 校長事務打合せノ爲メ福井高等工業學校、桐生高等工業學校、宮内省、文部省へ出張ス。
- 八月一日 今秋 聖上陛下陸軍特別大演習並ニ海軍特別演習御統裁ノ爲メ鹿兒島、宮崎兩縣下へ行幸ノ砌本校へ行幸アラセラルベキ旨、御内定ノ趣縣ヨリ通知ニ接ス。校長出張不在ノ爲メ山本教授校長代理トシテ各係主任ヲ召集シ協議ヲ行フ。
- 八月十四日 文部大臣官房秘書課長ヨリ本校へ行幸御内定ノ旨通牒ニ接ス。
- 八月二十日 本校内御巡覽御道筋、玉座、其他室割ヲ大略決定、宮内省へ進達ス。校長以下全職員及ビ學生ノ一部宮崎神宮ニ於ケル縣市合同主催行幸御安泰祈願祭ニ參列ス。
- 九月二日 午前八時ヨリ始業式ヲ兼ネ校長ヨリ學生一同ニ對シ行幸ニ關スル訓辭アリ。御安泰祈願ノ爲メ全員宮崎神宮ニ參拜ス。職員學生一同ニ對シ第一回健康診斷ヲ施行ス。
- 九月六日 供進スベキ御料乳ヲ本校ニ委託スベキ旨縣ヲ經テ通知ニ接ス。
- 九月七日 第一學年生全部及前年行ハザリシ其他ノ者ニ對シ種痘ヲ行フ。

- 九月九日 第二回下檢分ノ爲メ黒田侍從、本多行幸主務官一行及宮崎縣知事以下各部長廳員四十五名來校ス。
- 九月十四日 獻上品目録完成シタルニ付キ縣ヲ經テ宮内省ニ進達ス。
- 十月一日 行幸御安泰祈願ノ爲メ職員學生一同宮崎神宮ニ參拜ス。全員ニ對シ第二回健康診斷ヲ施行ス。本日ヨリ第二期警備ニ着手シ第一期計畫事項ノ徹底ニ努メ其他諸般萬遺漏ナキヲ期ス。
- 十月二日 宮崎縣警察部長菊池盛登氏ヲ聘シ講堂ニ於テ行幸御警衛ニ關スル講演ヲ聽ク。
- 十月八日 職員學生一同市内牟田町御親開場地均奉仕作業ニ從事ス。
- 十月十日 宮内大臣官房總務課長ヨリ宮崎市御駐轡中本校舎ヲ非常御立退所ニ指定セル旨通牒ニ接ス。
- 十月十一日 豫テ伺上中ノ獻上品ニ就キ御採納ノ御旨縣ヲ經テ拜承ス。
- 十月十二日 住吉牧場内御料乳牛舎修被式ヲ舉行ス。
- 十月十五日 都城聯隊江口少佐二個中隊ヲ指揮シ、非常御立退所警備ノ現地教育ヲ行フ。
- 十月十六日 本日ヨリ一般ノ學校參觀ヲ謝絶シ、商人ニハ門鑑ヲ與ヘテ取締ヲ嚴ニス。
- 十月十八日 内務省唐澤警保局長下檢分ノ爲メ來校ス。
- 十月十九日 職員學生一同消防演習ヲ行フ。本日官報ヲ以テ本校行幸ノ儀正式發表セラル。
- 十月二十一日 職員學生御親開豫行演習ニ參加ス。
- 十月二十二日 内務省勝俣防疫官來校ス。
- 十月三十日 縣ト合同ニテ全校行幸豫行演習ヲ行フ。

十一月一日 内務省岡田衛生局長來校ス。
 十一月二日 全員ニ對シ第三回健康診断ヲ施行ス。
 十一月四日 木村宮内官下檢分ノ爲メ來校ス。
 十一月六日 聖上陛下本日午前九時二十五分宮城御發輦ニ付キ御安泰祈願ノ爲メ同時刻職員學生一同宮崎神宮ニ參拜ス。
 十一月八日 本日ヨリ全校休講トシ全員專ラ奉迎準備ニ當ル。校内御通路ヲ清拭シタル後通行ヲ禁止ス。
 十一月九日 本日ヨリ牧場職員學生及第三拓殖訓練所生徒ヲ以テ警備隊ヲ組織シ晝夜牧場内御料乳牛舎ノ警備ニ當ル。
 十一月十日 聖上陛下御風氣ニ付キ、御平癒祈願並ニ行幸御安泰祈願ノ爲メ職員學生一同宮崎神宮ニ參拜ス。本日ヨリ本校職員學生ヲ以テ警備隊ヲ組織シ晝夜兼行ノ非常警備ヲ開始ス。
 十一月十一日 全校修祓式ヲ舉行ス。
 十一月十三日 賜饌ニ召サレタル教授及講師十三名都城賜饌場へ參向ス。午後三時十二分 聖上陛下宮崎驛ニ御着車、直チニ行在所ニ入御アラセラル。職員學生一同橋通五丁目ニテ奉迎ス。本日ヨリ非常御立退所トシテ警官二名本校ニ出張警備ニ當ル。
 十一月十四日 午前九時四十二分、天皇陛下本校ニ行幸遊バサレ、同十時四十七分天機麗シク還御アラセラル。御豫定時間ヲ過サセ給フコト正ニ廿五分ナリ。午後一時ヨリ市内牟田町山十製絲工場跡廣場ニ於テ、

學生全員御親閱ヲ拜受ス。午後五時校長獻上品ヲ行在所ニ搬入ス。午後六時ヨリ職員學生一同市主催ノ提灯行列ニ參加ス。同夜校長御陪食ヲ仰付ケラレ特ニ有難キ御言葉ヲ拜受ス。

十一月十五日 天皇陛下午前八時五十七分宮崎驛御發車延岡市へ行幸アラセラル、ニ付キ職員學生一同驛頭ニ奉迎申上グ。午後一時四十六分宮崎驛御通過鹿兒島市へ御還幸アラセラル、ニ付キ職員ハ驛頭ニ學生ハ御道筋ニ於テ奉送申上グ。本日ヲ以テ本校及牧場ノ警備ヲ解ク。

十一月十七日 校長以下職員學生一同宮崎神宮ニ參拜ノ上、行在所御跡拜觀ノ爲メ宮崎縣女子師範學校ニ赴ク。

十一月十八日 講堂ニ於テ行幸ニ關スル校長ノ謹話アリ。後本校内御天覽跡ヲ一同拜觀ス。

十一月二十日 校長御禮言上ニ參内ノ爲メ上京ス。

十一月二十一日 天皇陛下午前十一時天機麗シク宮城ニ御還幸アラセラル。職員學生一同宮崎神宮ニ於テ舉行セラレタル御還幸奉賽式ニ參列ス。

昭和十一年八月一日印刷
昭和十一年八月五日發行

非賣品

編輯兼發行者 宮崎高等農林學校

印刷者 東京市本郷區森川町七十番地 養賢堂

代表者 及川伍三治

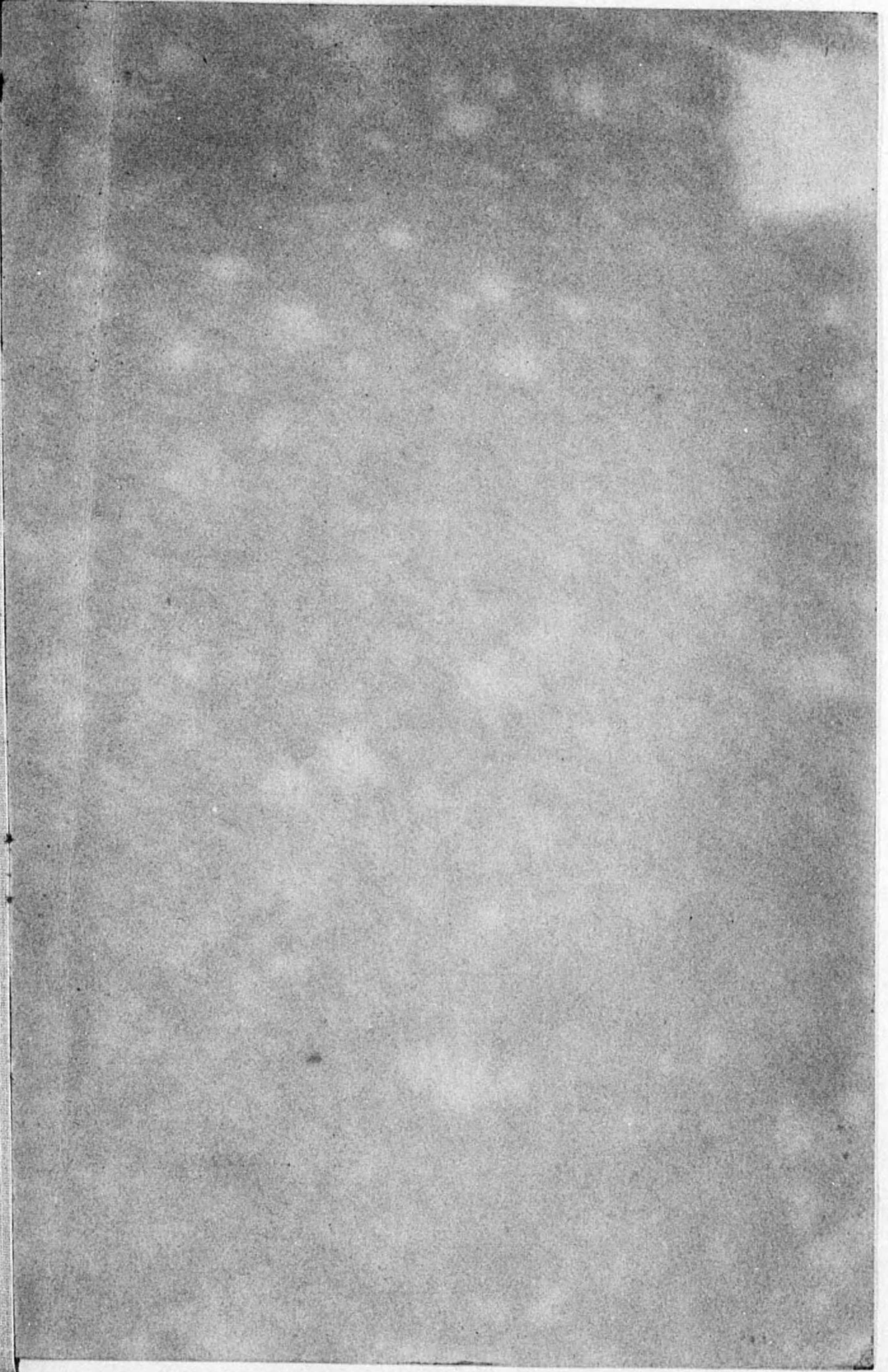
印刷所 東京市本郷區森川町七十番地 株式會社 養賢堂印刷部

頁	三	三七
行	九	二
正	深ダた	主張
誤	深ダに	出張

正誤表

291
101

291
101



終